

学校だより



はと広場

令和7年 1月 号

さいたま市立北浦和小学校

TEL 048-831-2463

大志を抱こう！

校長 永井 有司

明けましておめでとうございます。令和7年（2025年）がスタートいたしました。今年もよろしくお願ひいたします。日頃から本校の教育活動に御理解・御協力をいただき、心より感謝申し上げます。

さて、札幌の「羊ヶ丘展望台」に有名なクラーク博士の銅像があります。「丘の上のクラーク像」と名付けられた像の台座には、次の言葉が刻まれています。「Boys, be ambitious」（少年よ、大志を抱け）クラーク博士は、

1876年に札幌農学校（現北海道大学）を開校し、初代教頭（事実上の校長）として、専門の植物学や自然科学、教鞭をとり、英語を教えたりキリスト教を伝えたりしました。クラーク博士が、日本に滞在したのはわずか8か月でしたが、彼の薫陶を受けた第一期生の多くは、日本ののちの教育界などをリードしていく人々となりました。北海道帝国大学初代総長の佐藤昌介氏や実業家の渡瀬寅次郎氏等です。さらに二期生には、教育者の新渡戸稲造や思想家の内村鑑三などを輩出しました。まさに、クラーク博士の「少年よ、大志を抱け」という言葉を受けとめた若者たちが、日本をリードしていったのです。

「少年よ、大志を抱け」という、この言葉ですが、皆さんは、この言葉をどのように受け止めておられるでしょうか。この時、博士が言った「大志」とは何でしょうか？ 実は、この言葉のあとに、次のような言葉が続いていたと言われています。「少年よ、大志を抱け。ただし金を求める大志であってはならない。己の利己心のみを望む大志であってはならない。名声といううわつついたつかの間のものを求める大志であってはならない。人間としてあるべき全てのものを求める大志を抱け」と。ここまで読むと、「少年よ、大志を抱け」に込められた博士の思いを知ることができます。

実は、他にも諸説あるそうです。「Boys, be ambitious in Christ.」（少年よ、キリストにあって大志を抱け）。「Boys, be ambitious like this old man.」（少年よ、この老人のように大志を抱け）実はこの言葉を語った時、クラーク博士は50歳だったと言われています。「大志は何歳になっても抱くことができる」ということを教えてくれます。この説を知った時、「わたしも幾つになっても、子どもたちに、クラーク博士のように言える人生を歩みたい」と心から思いました。これだけいろいろ説がある…ということは、おそらくクラーク博士は、折に触れ「大志を抱け」と語っていたのかも知れません。

新しい年がやってくると、新しい目標を立てる人が多いと思います。「今年こそ、〇〇を達成したい」「今年こそ、〇〇を続けよう」と。小さな目標でも、達成できた時の成就感は何ともいえないものがありますね。子どもたちも、年の初め（学期の初め）には、自分なりの目標を立てます。もしかしたら、家庭で相談を受けた方もあるかも知れません。ぜひ、少し頑張れば達成できそうな目標になるよう相談に乗っていただければと思います。「大志」と表現するのはまだまだ先は遠いかも知れませんが、一つひとつの小さな目標に取り組んでいく積み重ねの先が、きっと「大志」につながっていくのでしょうか。今年1年が子どもたちにとって、保護者の皆様にとって、地域の皆様にとって、希望と喜びに溢れる1年となることが心から願ってやみません。

